

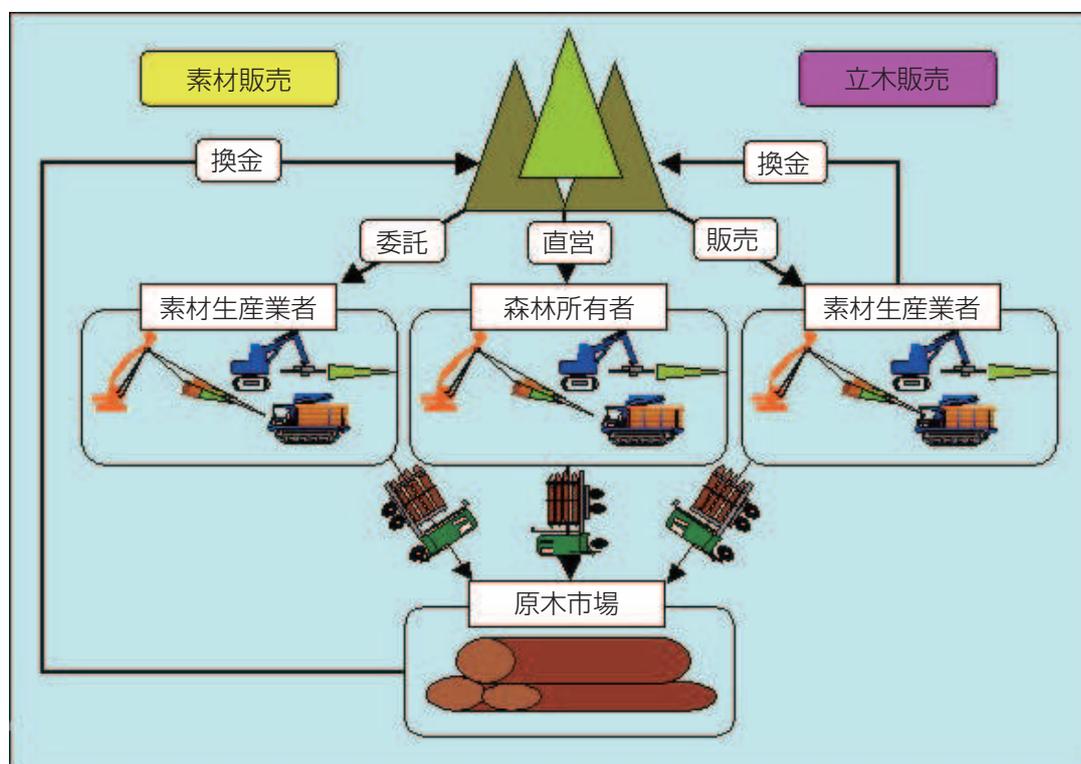
## 第3章 木を販売する

### 1 木を販売する方法

木を販売する方法には、木を土地から切り離し（伐採）素材（丸太）として販売する『素材（丸太）販売』と木を土地に成立させたまま販売する『立木販売』の2つの販売方法があります。『素材（丸太）販売』は「伐採」から「原木市場までの運搬」に至る一連の工程を、素材生産業者（民間の林業会社）等への委託もしくは森林所有者の直営で行い、原木市場で販売されることにより換金される販売方法です。販売価格は、時価で適切に評価されますが、換金までに相当の時間を要したり、木材価格の動向によっては赤字を出す場合もあります。

『立木販売』は、木を土地に成立させたまま素材生産業等に販売するため換金が早いという利点があります。

しかしながら、適正な販売価格を導き出す為には、森林所有者にも、立木の材積や形状を見極める能力が求められます。



上記の図とおり『素材販売』での生産は、森林組合等素材業者に委託する方法と森林所有者自らが行う直営（このような森林所有者を「自伐林家」といいます）の2種類があります。直営は自らの労働力を提供するため林業経営の安定化を図ることが可能ですが、生産には労働力の他に機械設備等が必要となるため多額の初期投資が必要となります。したがって生産方式をどちらにするかは、森林所有者の経営規模（森林の所有面積等）により判断することになります。いずれにしても最寄りの森林組合に相談することをおすすめします。

## 豆知識

### ●『素材販売』と『立木販売』どちらが有利！

前述したとおりどちらも一長一短がありますので、どちらが有利かを判断するのは難しいでしょう。ただ初めての場合は、森林から販売までの全ての流れを確認する意味で『素材販売』に挑戦してみてもいいでしょうか？

## 2 採材

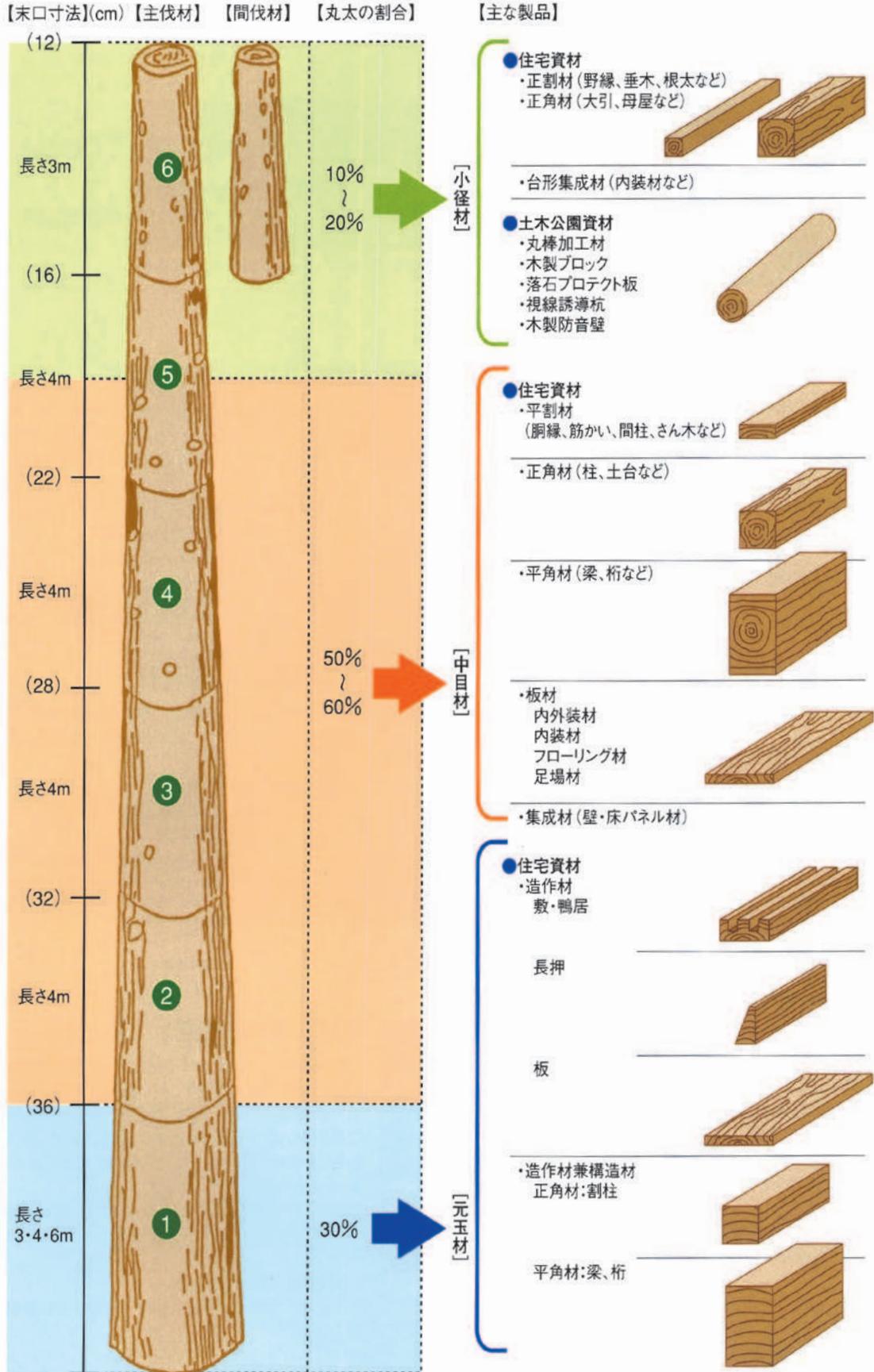
販売しようとする木材は、長さ（樹高）が通常 20 m 前後あります。原木市場で販売するためには、建築用材（柱、土台）などの用途にあわせて長さを整える必要があり、この工程を『採材』といいます。木材価格は、この『採材』の善し悪しで決まると言われています。

図で表す徳島すぎの利用形態では、

- ① 元玉材（一番玉）は、造作材（敷・鴨居、長押、板）や造作材兼構造材（正角材：割柱、平角材：梁・桁）等に製品化されます。
- ② 中目材（二番玉～）は、平割材（胴縁、筋かいなど）や、正角材（柱、土台など）、平角材（梁など）、板材（内外装材など）、集成材等に製品化されます。
- ③ 小径材は、正割材（野縁、垂木など）や、正角材（大引など）、土木公園資材（丸棒加工材など）等に製品化されます。

時代とともに木材製品の需要動向は変化することを念頭において、元玉材、中目材、小径材の原木が、どのような製品に利用されるかを把握することで、径級に応じた採材の方針が決まります。

# 図で表す徳島すぎの利用形態



【注】ここでは、以前の日本農林規格により次のように分類しています。**板材**(いたざい)＝厚さが7.5cm未満で幅が厚さの4倍以上のもの、**正割材**(しょうわりざい)＝厚さおよび幅が7.5cm未満で横断面が正方形のもの、**平割材**(ひらわりざい)＝厚さが7.5cm未満で幅が厚さの4倍未満で横断面が長方形のもの、**正角材**(しょうかくざい)＝厚さおよび幅が7.5cm以上のもので横断面が正方形のもの、**平角材**(ひらかくざい)＝厚さおよび幅が7.5cm以上のもので横断面が長方形のもの。

## コラム

### ● 採材技術を上達させるには！

まずは、原木市場に通って、丸太の価格や売れ筋を把握することをおすすめします。同じ一本の木でも、どのような長さに切り分けて採材するかで売上げが変わってきます。長さのほかに、木の曲がりやキズの部分をどのように採材するかも大きなポイントとなります。篤林家（林業で生計を立てている人）といわれる方は、自分の丸太が出ていない時でも、市場に通い常に研究を怠らないそうです。また、「製品ではなく、商品をつくっている」という考え方を持つことが大切です。つまり木材を供給側の視点でつくるのではなく、需用者のニーズに合ったものを提供するという考え方です。

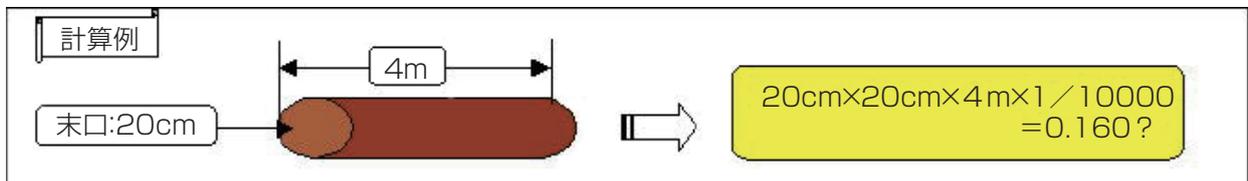
### 3 原木（素材：丸太）の材積の求め方

採材により長さを整えられた材を原木といいます。

原木の材積の求め方は、JAS（日本農林規格）で定められた『末口二乗法』で求められます。末口とは、原木の両端の木口のうち直径の小さい方をいいます。（大きい方は元口）末口径は、皮の厚さを除いた木質部で、2cm 括約で測定します。例えば、9.0～11.0cm を 10cm、11.0～13.0cm を 12cm としています。

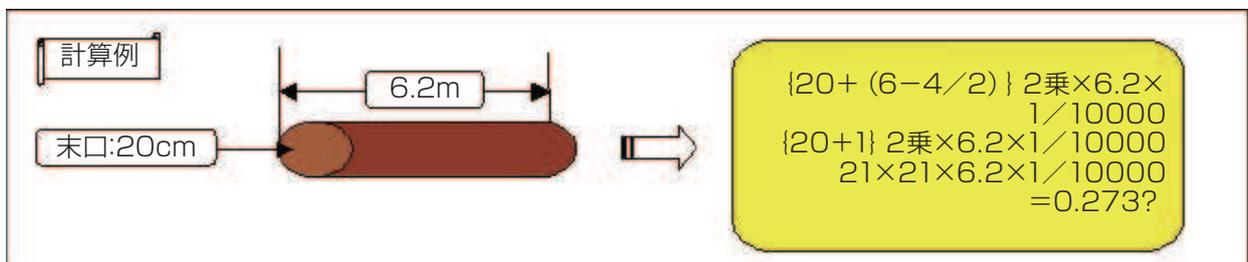
計算式は、次のとおりです。

$$\text{末口 [cm]} \times \text{末口 [cm]} \times \text{長さ [m]} \times 1 / 10000 = \text{原木の材積}$$



※なお、長さ 6 m 以上の原木の計算式は次のとおりです。

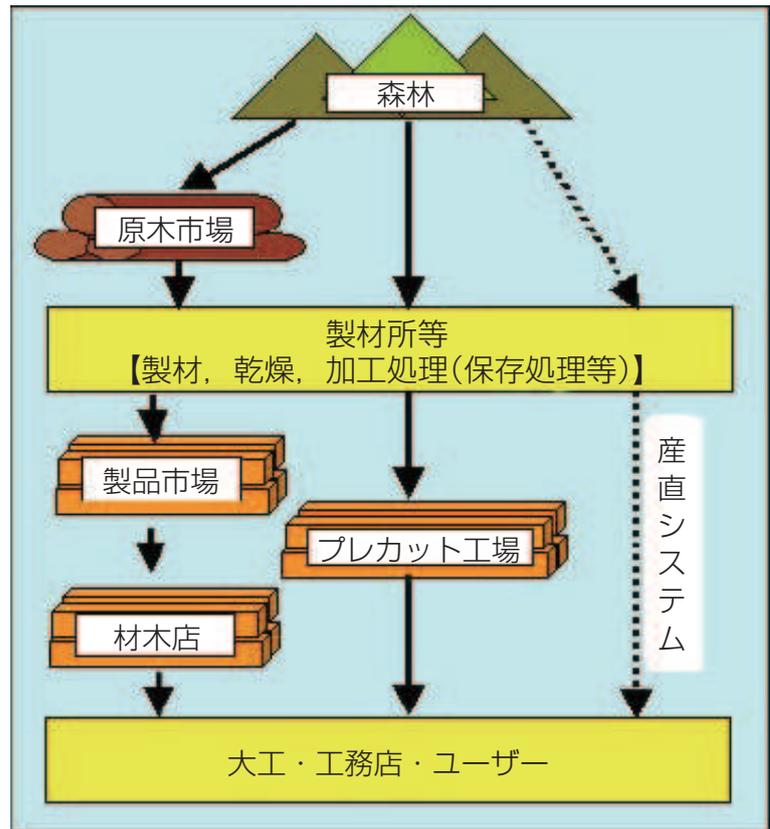
$$\{ \text{末口 [cm]} + (\text{長さで m に満たない端数を切り捨てたもの [m]} - 4 / 2) \} \times 2 \times \text{長さ [m]} \times 1 / 10000$$



## 4 木材の流通

一般的に木材は、図のような流通をしています。

森林から生産された原木（丸太）は、原木市場へ出荷され、競りによって価格が決められて製材工場へと運ばれます。製材工場では、原木（丸太）から製材品に加工され、製品市場へ出荷されたり、プレカット工場へ直送されていきます。製品市場では、再び競りによって価格が決められ材木店へと運ばれ、材木店から大工・工務店へと流通していきます。



## 5 県内の原木市場

県下には、次のとおり森林組合、協同組合、株式会社により運営されている原木市場があります。なお、原木市場で行われる市売り日は、それぞれの市場で違いますので問い合わせください。

名 称	所在地	電話番号	備 考
(株)ゲンボク	〒773-0007 小松島市金磯町3-65	0885-32-2270	
徳島県木材センター 協同組合	〒770-8001 徳島市津田海岸町4-31	088-622-5215	
美馬郡木材協同組合	〒777-0222 美馬市穴吹町三島字舞中島1501-3	0883-52-4430	
三好木材センター 事業協同組合	〒771-2302 三好市三野町大字加茂野宮字中島 156-1	0883-77-4311	
徳島中央森林組合 神山共販所	〒771-3310 名西郡神山町神領字西上角33	088-676-0034	
徳島中央森林組合 上勝共販所	〒771-4503 勝浦郡上勝町大字生実字下野16-1	0885-46-0007	
木頭森林組合共販所 (相生木材センター)	〒771-5408 那賀郡那賀町吉野字弥ハカへ55-1	0884-62-0097	
木頭森林組合 横石木材センター	〒771-5411 那賀郡那賀町横石字上田20	0884-62-3558	



原木市場の市売り状況



原木の販売状況